

生産情報活用による農産物ユビキタス・マーケティング技術の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所 杉山 純一

2 研究期間

2006～2008 年度 (3 年間)

3 研究目的

産地側では農産物の生産情報が色々な場面で活かされるような利用の仕組みが切望されているが、生産情報の開示において一番の障壁は、どのように識別子 (URL と識別番号) を商品に付与するかが課題である。一方、消費側では食の安心安全や食育などの観点から、農産物の生産情報に対するニーズが高まっているものの、それに応えるための農産物とその情報の供給体制は、ほとんど整備されていない。このため、農産物の生産情報を、単なる消費者への情報開示だけでなく、販路拡大、ブランド化、流通改善等のマーケティングに活かせる技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

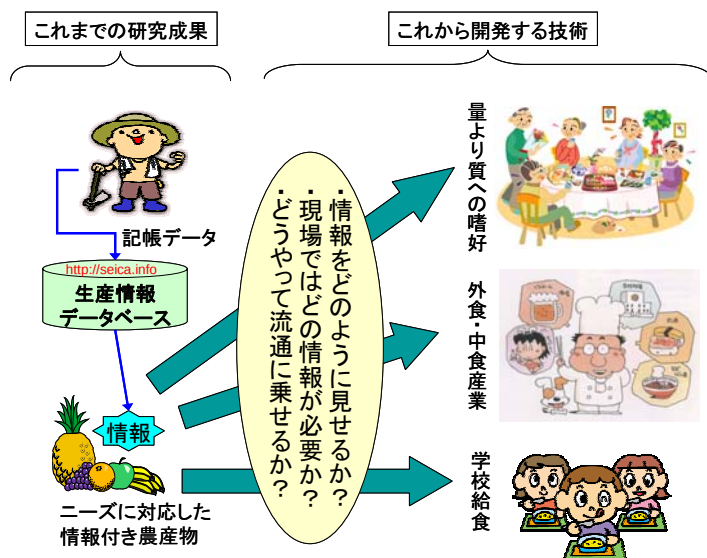
- ① 識別子の貼付手法の開発と双方向コミュニケーションによる効果測定 ((独)、茨城県農業総合センター、全国農業協同組合連合会茨城県本部)
産地への聞き取り調査を行い、具体的な問題把握を品目別に整理し、産地がコストをなるべくかけずに容易に取り組むことのできる識別子の貼付手法を開発する。
- ② リターナブル・コンテナによる物流と生産情報の融合システムの開発 ((独)、全国農業協同組合連合会茨城県本部、茨城県農業総合センター)
リターナブル・コンテナに付与する識別媒体 (バーコード、QR コード、IC タグ) のメリット、デメリットを検証し、現場に最も適した識別媒体を選択・導入する。識別子の伝達手段として、このリターナブル・コンテナシステムを使って、店頭での情報開示を試みる。
- ③ 外食産業・中食産業・学校給食向けの流通手段と情報提供システムの開発 (全国農業協同組合連合会茨城県本部、(独)、茨城県農業総合センター)
外食産業・中食産業・学校給食向けに、末端現場において、識別子を有効に伝達する手段と生産情報を有効に活用したアプリケーション (食材紹介メニュー作成システム、食育ツール等) を開発する。

5 目標とする成果

農産物流通において、いつでもどこでも必要な情報を必要な場所で有効活用できるユビキタス・マーケティング技術が確立される。これにより、①消費者ニーズに合った農産物流通、②地域特徴を活かした農産物の販路拡大、③コンテナの活用による出荷作業の効率化 (情報の効率的な伝達、出荷コストの削減等)、④地産地消・食育への貢献が期待される。

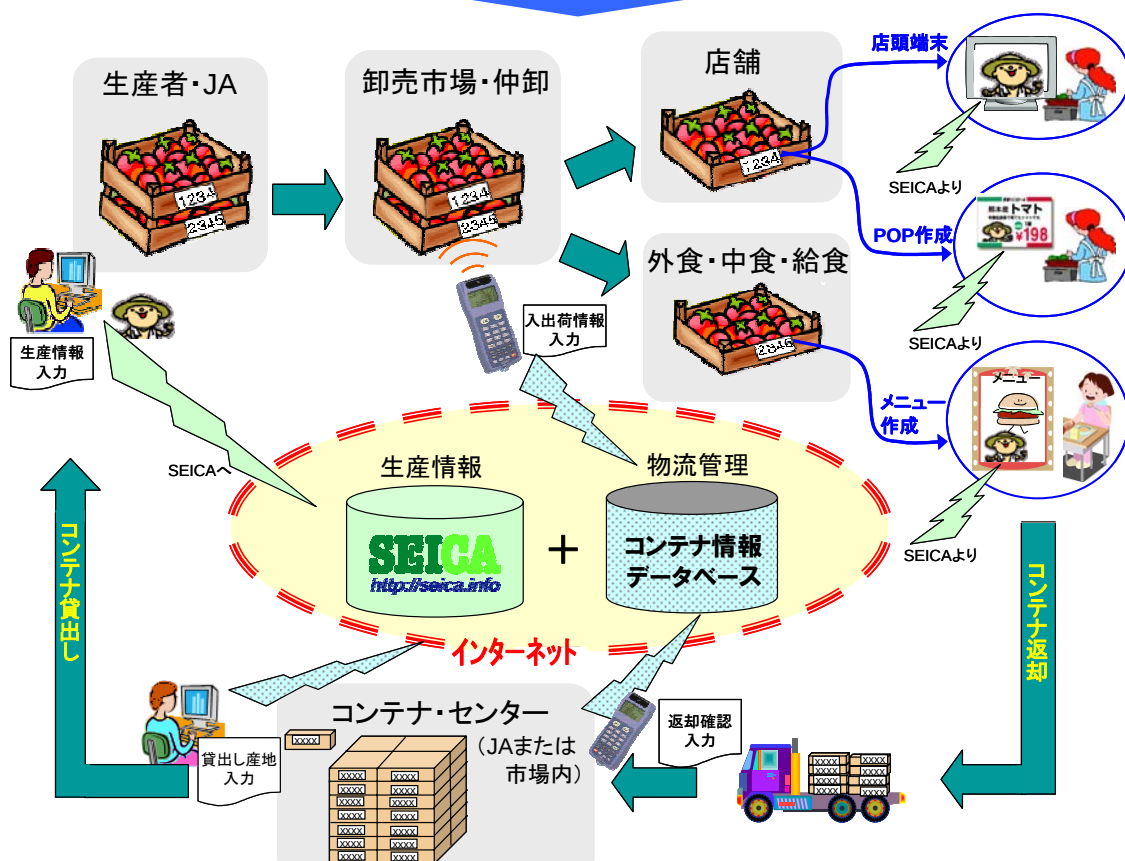
生産情報活用による農産物ユビキタス・マーケティング技術の開発

研究のターゲット



研究内容

1. 識別子の貼付手法の開発と双方向コミュニケーションによる効果測定
2. リターナブル・コンテナによる物流と生産情報の融合システムの開発
3. 外食産業・中食産業・学校給食向けの流通手段と情報提供システムの開発
リターナブル・コンテナによる物流と生産情報の融合システムの開発



農産物流通において、いつでもどこでも必要な情報を必要な場所で有効活用できるユビキタス・マーケティング技術が確立される。